

# 令和6年度 学校評価【計画書】

<p>学校教育ビジョン 【学校教育目標】心豊かにたくましく 自主的に活動し 自らの生き方を創造する 児童生徒の育成</p> <p><b>【めざす子ども像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら課題を見つけ、進んで学び、将来の夢に向かって努力する子（自主性）</li> <li>・一人ひとりの違いを認め、思いやりの心を持ち、他者も自分も大切にできる子（道徳心）</li> <li>・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子（社会性）</li> <li>・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子（健全な心身）</li> </ul>	<p><b>【経営目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。</li> <li>・温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係作りに努める。</li> <li>・基本的生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。</li> <li>・義務教育学校に向けての小中連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。</li> <li>・組織的・機能的な学校運営に努める。</li> </ul>
---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	子どもを主役にした授業改革を推進し、生徒の自主性の育成から学力向上を図る。	子どもを主役にした個別最適な授業を通して教科のねらいを達成するため、教員のねらい設定力や単元設計力の向上を学校研究で行う。	【研究・学習指導部】 研究主任	個別最適な学びを意識した授業に取り組んできた。今年度はさらに教科のねらいを達成するために必要なカリキュラム編成を行い、授業を展開する。	【成果指標】 子どもを主役にした授業改善の結果、生徒が教科のねらいを達成することができる。	自ら考えたり、他者と協力したりしながら、授業の課題を解決することができたという生徒が、 A=80%以上 B=75%以上 C=70%以上 D=65%未満	生徒アンケート (学期末)
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、安心安全な学級づくりを行う。	「生活3原則」を徹底し、生徒指導の4視点のある授業づくりを行う。また、いじめを見逃さないよう、組織的に初期対応を徹底する。	【生徒理解部】 生徒指導 主事	担任間の情報共有丁寧に行っており、生徒間のトラブルや生徒指導上の問題も少なく、落ち着いている。	【成果指標】 学校は安心して過ごせる場所だと生徒が感じることができる。	学校に行くのは楽しいと答えた生徒が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	生徒アンケート (学期末)
③キャリア教育・進路指導	9年間の成長を見据えた小中連携を図り、将来に向かって希望や夢や目標をもって生きる意欲や態度を形成する。	中学生卒業をゴールに見据え、自己のキャリア形成をはかるためにキャリアパスポートでの振り返りを行う。	【研究・学習指導部】 進路指導	取組の推進により、指標化向上してはいるものの、キャリアパスポートを有効に活用した系統的な取組となっていない。	【成果指標】 系統的な学習で、自分の将来の生き方について考えることができる。	自分の将来について考えることができたという生徒が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	生徒アンケート (学期末)
④保健管理	自己調整力を働かせ、健康な体を作ろうとする態度を育てる。	「元気アップ週間」の活用や学校保健委員会への生徒の主体的な取組で、生活習慣の改善を進める。	【保健指導部】 養護教諭	就寝時間やメディア使用時間に課題のある生徒が多いため、メディア使用時間を含め規則正しい生活習慣の確立をめざしている。	【成果指標】 自分の目標を立て、それを意識して取り組むことができた。	自分の生活習慣の目標を意識できた生徒が A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	元気アップカード (実施後)
⑤安全管理	安全教育を推進し、生徒の命を守る意識を高める	教職員の訓練や研修を継続するとともに、事前学習の実施や訓練の工夫で、生徒の危機対応力も醸成する。	【総務・事務部】 教頭	消防訓練では、消防署員からの職員の対応は高評価であり、教職員の安全管理意識を高めている。	【成果指標】 危機を想定した訓練や研修で、危機対応が必要であることを意識することができた。	自分自身の危機対応能力が身についたと感じる教職員が 危機対応を向上させる訓練が行われたと感じる生徒・保護者が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	教職員アンケート 生徒アンケート 保護者アンケート (研修・訓練実施後)
⑥特別支援教育	インクルーシブ教育の視点で生徒の多様性を認め、すべての生徒の居場所を確保する。	定期的に校内特別支援委員会を開催し、必要に応じて迅速な対応を協議する。また、教育支援員の配置を計画を立て、組織的に対応にあたる。	【生徒理解部】 特別支援教育 コーディネーター	積極的な情報交換や共通認識の場が持たれているが、特別教育の視点で個に応じた支援を強化するために協議し、組織的に対応していく必要がある。	【成果指標】 情報交換や校内特別支援委員会を通して、個に応じた支援に生かすことができた。	個に応じた支援に生かすことができた と答えた職員が A=90%以上 B=80%以上 C=70%以上 D=70%未満	教職員アンケート (1・2学期末)
⑦組織運営・業務改善	教職員の働き方改革を図り、時間外勤務時間の更なる削減を目指す。	課外活動の取り組み方の工夫や授業の合間の時間も有効に活用した会議・研修等の実施により、放課後の各校務分掌遂行に必要な時間を確保する。	【総務・事務部】 教頭	校務でのICT活用も推進し、業務の効率化も進めてきたが、業務の多様化により時間外勤務の短縮には至っていない。	【成果指標】 時間外勤務時間を減少させることができた。	月平均時間外勤務時間が A=教員全員が45時間以下 B=教員平均で45時間以下 C=昨年度より減少 D=昨年度同様	勤務時間調査 (毎月)
⑧研修	主体的に学ぶ児童を育成することを意識した授業づくりのため、研修に進んで参加し、授業実践に生かすことで、教師力を高める。	授業改革を推進するため、小中連携した授業研究や互見授業、他校の公開授業への参加及び校外研修の選流や外部人材の活用などを積極的にを行い、授業に生かす。	【企画部】 若プロ・中堅 研担当	昨年度の学校研究の結果、本校のICT活用は進んだが、生徒の自主性に課題がある。	【満足度指標】 生徒が自分で考え、自分の考えを表現することができる授業づくりができています。	授業中、自分の考えをいろいろな方法で表現するようにしたと回答した児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	生徒アンケート (学期末)
⑨保護者、地域との連携	地域、保護者と連携し、「地域とともにある学校づくり」を進める。	地域の方や保護者が参加型の学校行事や学校公開などを行う。	【総務・事務部】 教頭 【企画部】 教務主任	学校だよりや保健・給食・図書だよりを定期的に発行するとともに、学年たよりの定期的・臨時的な発行により、保護者へ学校での生徒の様子・取組を伝える。	【成果指標】 参加型の学校行事や学校公開で参観者から意見を募集した回数が A:6回以上 B:4回以上 C:3回以上 D:3回未満	学校行事や学校公開での意見募集アンケート	
⑩教育環境整備	次年度の義務教育学校開校に向け、校務用データ整理に努める。	校内ネットワークとクラウドのフォルダ構成を共通化し、データの共有を促進する。	【企画部】 GIGAスクール 推進 リーダー	校内ネットワークからクラウドへの移行が必要とされており、既存データを新システムで有効に活用するための方策が必要である。	【満足度指標】 既存データを活用し、クラウド環境利用下でも効率的に資料を作成することができる。	既存データを有効に活用の上、資料を作成し、協議後、次年度のために修正して保存することができた と回答した教職員が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	教職員アンケート (1・2学期末)